

# QOL・セキュリティ向上に 資するサービス・機器 導入支援について

③チーム「よりよく生きる」



# アイデアを思いついた経緯





## 【人物像】

**父：年齢 83 歳**

- 聴力が低下し、テレビの音が聞き取りにくい。
- 認知機能も低下

**母：年齢 81 歳**

- 認知機能は問題ないが、機械には弱い。

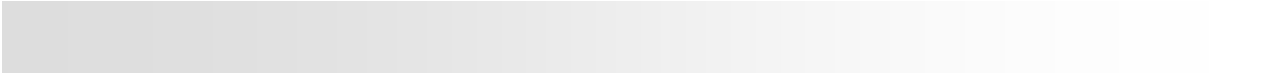
聴力が低下した父のため、テレビの音が聞こえやすくなるスピーカーをプレゼント。



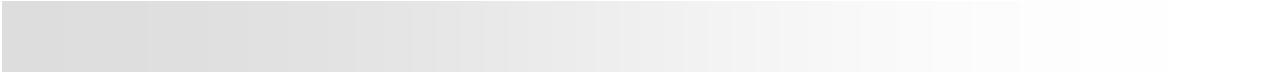
認知機能が低下した父はもちろん、認知機能に問題ない母も機械には弱く、テレビへの取り付け方法がわからない！  
遠方(京都⇔神奈川)にいるため取り付けに行くことも出来ない！



便利なものはあるのに使えない！ どうにかならないか？



ビジネスアイデアワークショップに  
提案した当初案について

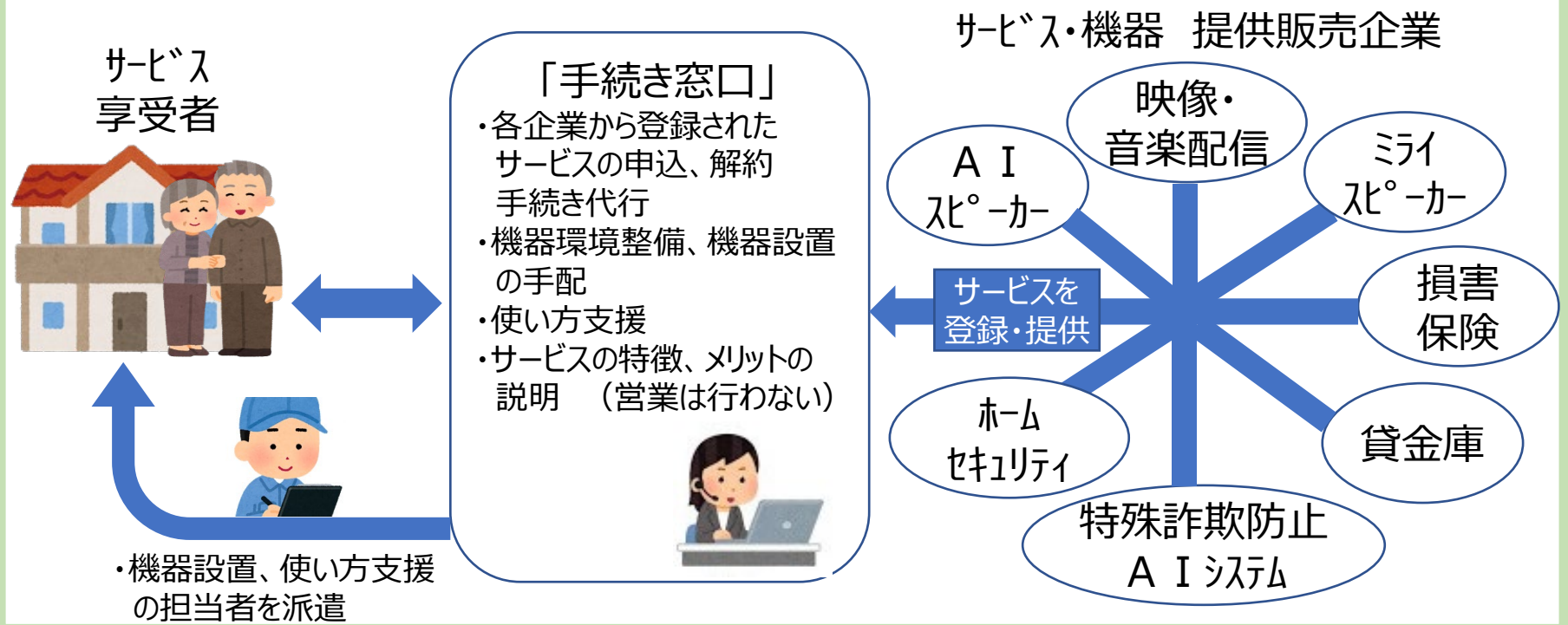


## 【テーマ】QOL・セキュリティ向上に資するサービス・機器導入支援について

### テーマの概要説明

**認知症の人を含む認知機能が低下した人を対象**に、QOL・セキュリティ向上に資するサービス・機器等の導入・使用方法習得を支援する。サービスに関連する手続きは、利便性向上のため「手続き窓口」を1本化する。

### サービス・機器提供方法の概要



## 目指したいこと

### 【最優先課題】 認知症の人のQOL・セキュリティを向上させる。

(そのために)

- QOL・セキュリティ向上のサービス・機器導入のハードルを下げる。
  - ・高価な機器はレンタルからスタートして効果を体験してから購入。
  - ・サービスを受けるために必要な環境整備も含めて、支援する。
  - ・サービスメニュー拡大のため参画する企業にメリットを提供し、幅広い業種の参画を目指す。

(参画企業のメリット)

- ・サービス・機器の販売促進。
- ・サービス享受者の認知機能が低下していることを事前に把握できる。  
(認知機能が低下した前提での対応が事前にできる。代理人の設定等)
- ・認知機能が低下した人の対応は、参画企業ではなく「手続き窓口」が対応。

【加えて】 提供するサービス・支援の中に、若年性認知症の人への役割を設ける。



# ワークショップでの意見・検討事項



## 【誰のためのサービスか？】

当初、認知機能が低下した高齢者を対象とを考えていたが、認知機能が低下する前から機器の操作に慣れているほうが、低下した後でも操作が可能であるとのことご意見から、広く中高齢者を対象とするべきではないか。

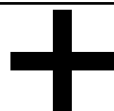
## 【どんな課題があるか？】

### 【ビジネス化へのハードル】

- ① サービス提供の組織をどのように作るか？
- ② どのようなサービスをメニューに加えるか？
- ③ どこで収益を確保するか？（いかにコストを抑えるか？）
- ④ 苦情、トラブル等が発生した場合の免責基準

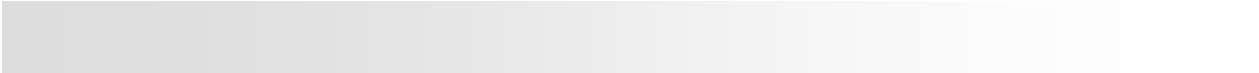
### 【その他】

- ⑤ 新しいサービスだけでなく使い勝手を向上するため、今あるリソース（テレビや電話）をいかに活用するか？
- ⑥ いかに地域のNPO・ボランティアや行政との連携・協力を推進していくか？

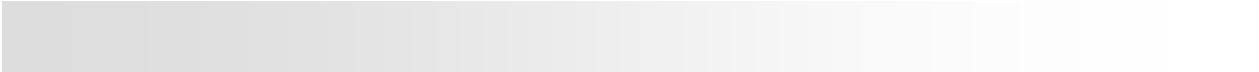


**ICT活用について当事者を支援している方からアンケートを行ってはどうか？**



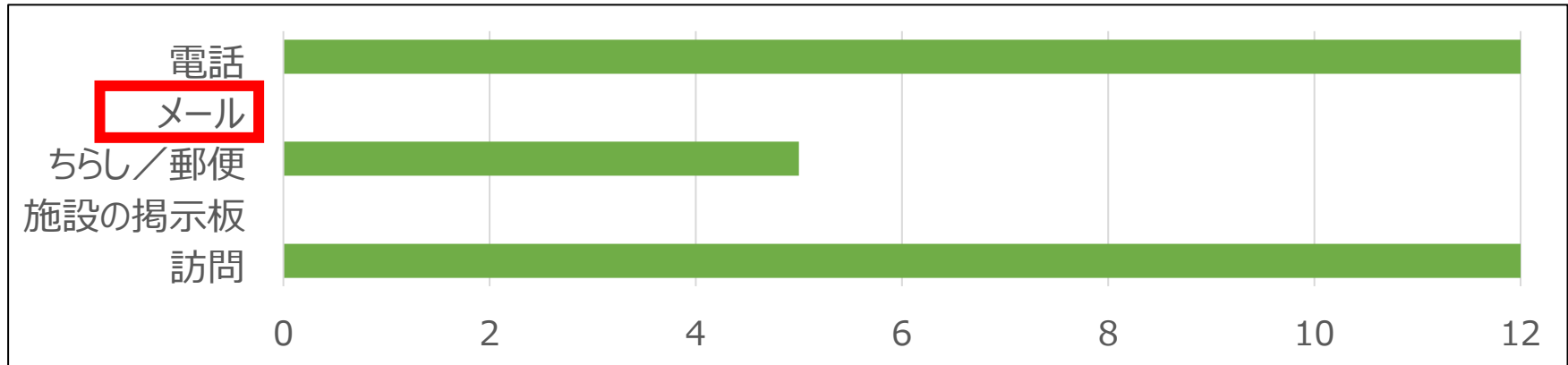


# アンケート結果

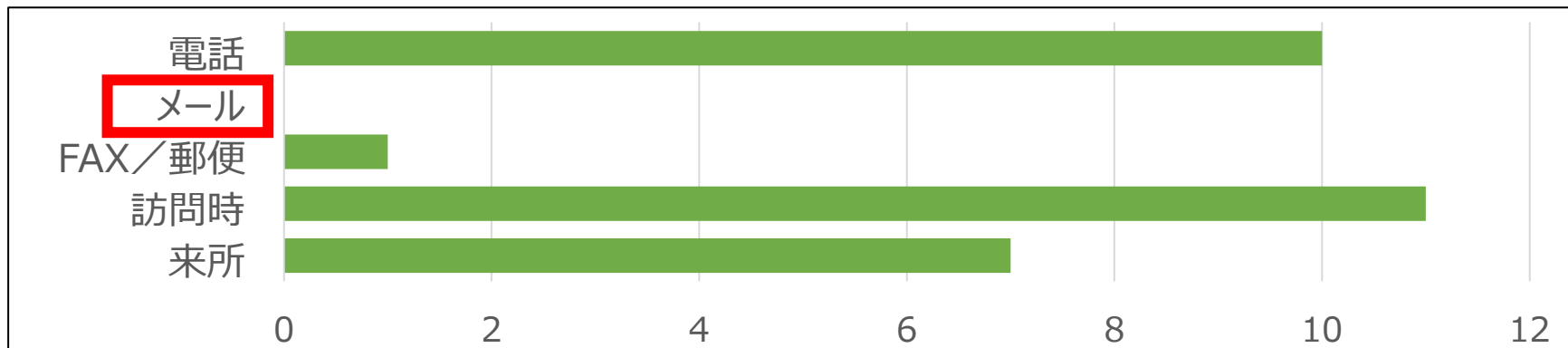


アンケート対象：京都府下の地域包括支援センター（12か所から回答）

（1）当事者様への情報伝達手段は何でしょうか？（複数回答）

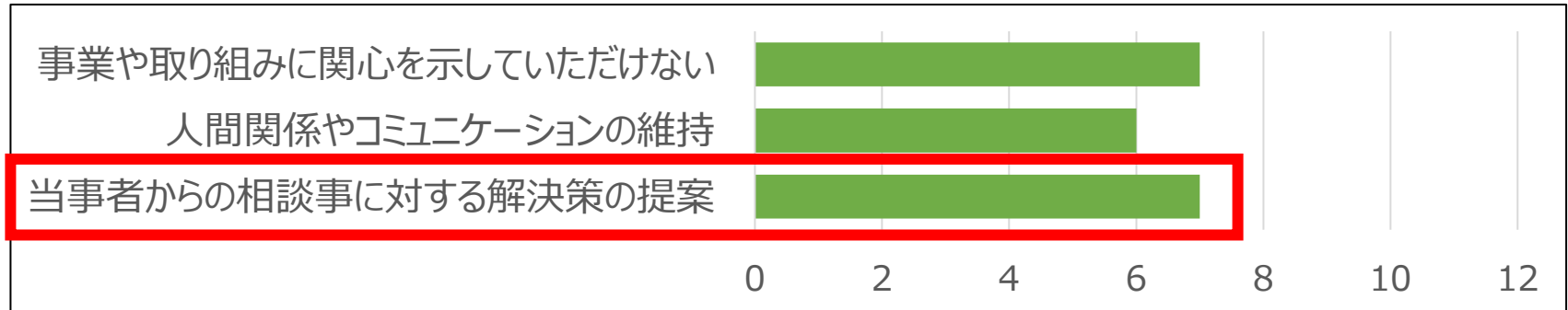


（2）当事者様からの問合せ手段は何でしょうか？（複数回答）

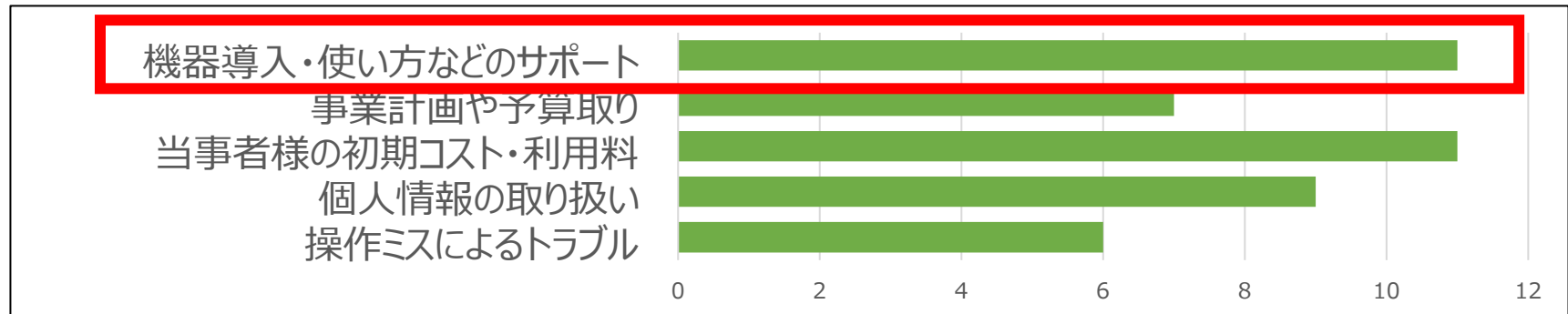


地域包括支援センターの現場においては  
当事者との情報伝達・問い合わせに、メールすらあまり使われていない。

(3) 当事者様とのやりとりで「うまくいかないなあ」「いい方法がないかなあ」と思われることは？  
(複数回答)



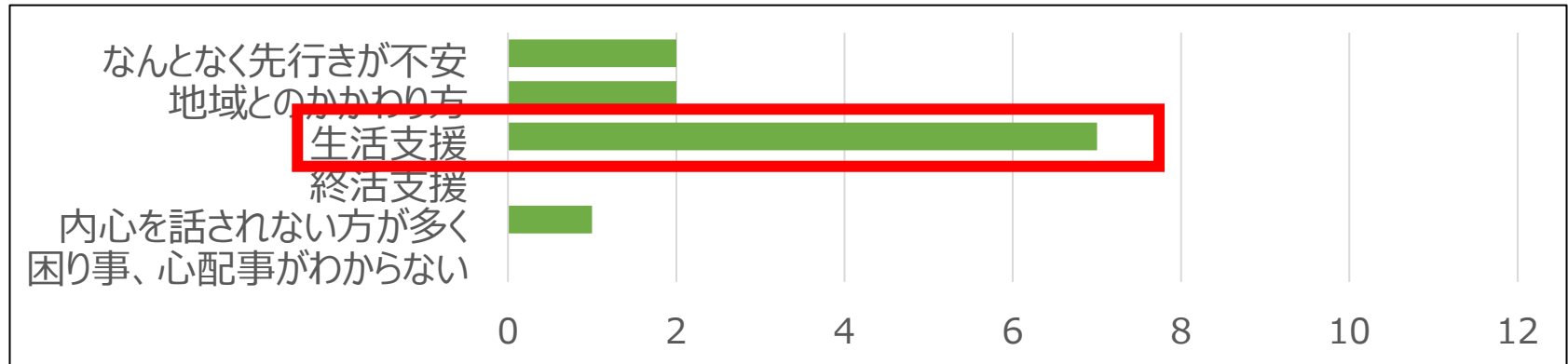
(4) 当事者様へITサービスを提供する上での課題は何でしょうか？ (複数回答)



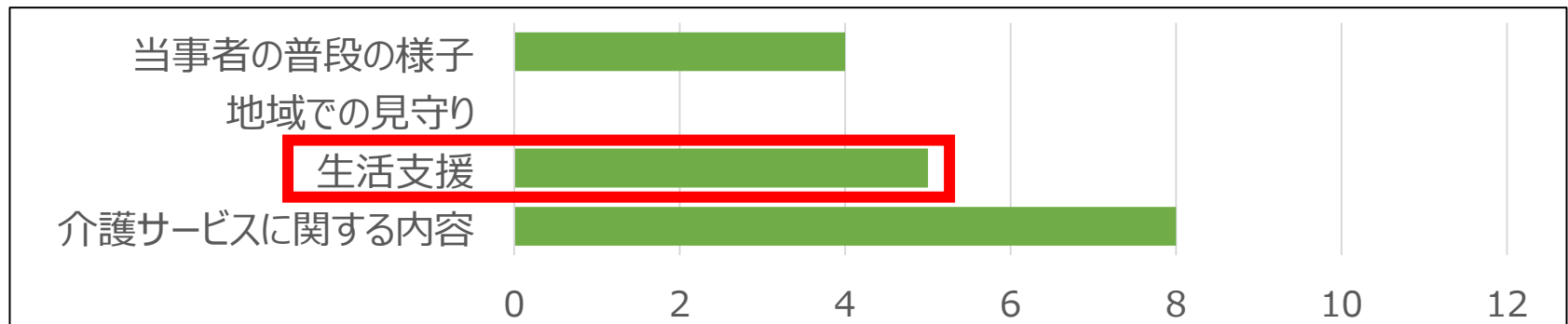
地域包括支援センターの現場においては

- ・相談事に対する解決策の提案に困っている。
- ・IT機器を提供する上で導入・使い方などのサポートが課題となっている。

(5) 当事者様からはどのようなご相談が多いですか？（複数回答）



(6) ご家族様からはどのようなご相談が多いですか？（複数回答）

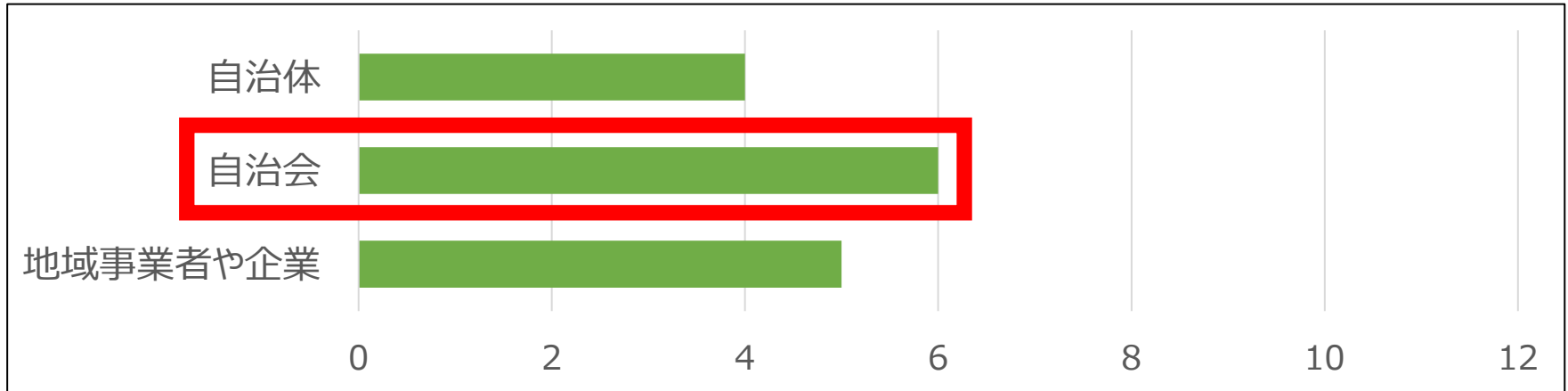


当事者および家族から地域包括支援センターへの相談は  
・生活上の支援に関することが多い。



サービス・機器の導入で解決できるものもあるのでは？

(7) 当事者様とのやりとりで連携できればよりよくなると思われる機関、団体などがありますか？  
(複数回答)



地域包括支援センターの現場においては

- ・地元密着で非営利の「自治会」と連携できれば、当事者にとってメリットがあると考えている。

ワークショップでの検討・意見や  
アンケート結果を  
受けた今後の方針

## 解決したい高齢者の抱える課題

- 生きがいや楽しみを持ち、社会的なつながりを保つことは、長寿や認知機能維持に役立つが、特に高齢男性は退職をきっかけに生きがいや社会的つながりを失うことが多い。
- 生活上困ったことがあっても、何処に相談・連絡してよいかわからない。
- 単身高齢者が増加しているが、単身者は自宅で体調不良等で倒れた時など発見が遅れる。
- 高齢者を狙った窃盗・特殊詐欺は依然として高い水準にある。



方策の方向性	左記方向性とした意図
当事者を中心に関係者の「困り事・心配事」を取り除く	困り事・心配事の解決が、Q O L 向上やセキュリティ向上につながるため。
I C T の活用	高齢世帯において I C T の導入・活用が遅れており、導入・活用によりセキュリティ・Q O L 向上が見込めるサービス導入も容易となる。また、 <b>当事者側の日常行動のデータを収集・分析することで、更なるサービス向上も期待</b> できる。
地域密着の小規模単位	手続き、機器設置や使用方法の説明は、対面を基本とするため。

アンケート結果から一定の潜在ニーズがあることが見込めるため、以下のいずれかの案から今後**実証実験を試みたい**。

実施母体（単位）	課題・補足等
①自治会	地域密着の小規模単位であり、理解が得られれば柔軟な運用が可能か？ サービス提供の人員は？
②大規模マンションの組合	
③学生ボランティア	孫世代とふれあう事は認知機能の低下抑制にもなるか？
④地域事業者	如何に事業者側へメリットを作り出すか？
⑤地域包括支援センター	当事者との信頼関係は構築されている。 ただしサービス提供の人員について、本来業務へ影響が出る可能性があり、実証実験へ向けてのハードルは高いか？

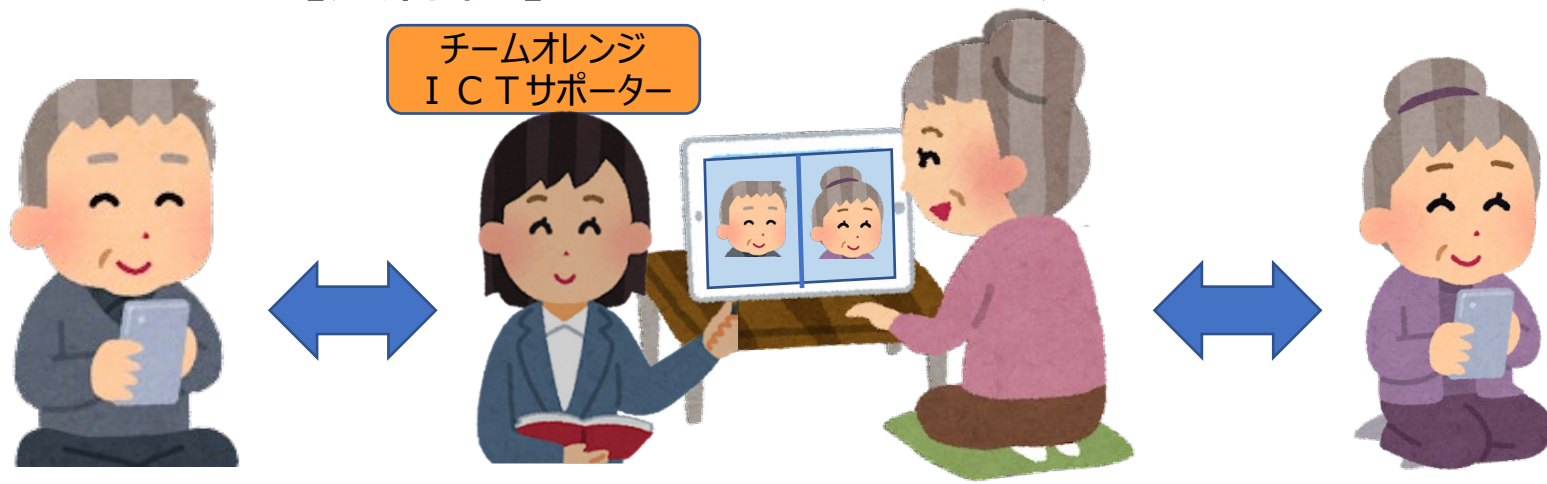


木津川地域包括支援センター加茂では  
「**チームオレンジ**」の更なる役割発揮を検討

地域サポーターと  
多職種<sup>1</sup>の職域  
サポーターのチーム

**チームオレンジ**の役割の一つとして  
当事者の I C T 利用をサポートする  
**I C T サポーター**を検討

【具体例】 オンラインによる認知症カフェ



頼りになる物知りな家族！

⇒当事者本人のために親身に  
相談に乗る子どものような存在